



2022 PLM Market Results (2022年度市場分析結果 (日本)) PLM Market & Industry Forum A CIMdata Leadership Event

April 2023

*Satoshi EZAWA, JP Rep. (MetaLinc K.K.)
Tel: 81-47-361-5850
Email: S.Ezawa@MetaLinc.com*

#plm4um

www.CIMdata.com

Copyright © 2023





デジタルトランスフォーメーションでの次なるものを明らかにして定義する

グローバル市場における競争優位のための戦略的マネジメントコンサルティング

PLMとそのデジタルトランスフォーメーションに関して独立系の信頼ある第一人者。世界中のクライアントにリサーチ、教育、また戦略的コンサルティングを提供。

弊社の使命：

革新的な製品やサービスをデザイン・設計し、ものにして、デリバリーを進め、そしてサポートに努めているクライアントの能力を最大限に発揮できるようにする

www.CIMdata.com

Copyright © 2023

本プレゼンの目的



CIMdata 免責事項

- 2022年 (暦年) のCIMdataのPLM市場分析の概要をお届けする
- さまざまなカテゴリーによるプロバイダの直接的収益の推定を紹介する
- 投資の変化、トレンド、またマーケットリーダーに対するインサイトを提供する
- 本リサーチの詳細な分析は、CIMdata 2023 Market Analysis Report シリーズにて提供される
- 提供されるすべての情報の収益と投資はCIMdataの推定である

重要注意事項



CIMdataのグローバルMARデータを制作する方法

- CIMdataの推定値は2022年 (暦年) であり、プロバイダの会計年度で報告されるものとは異なる場合がある
- 異なった通貨の相対的な強さは成長の推定値に影響を与える – 全ての推定値は米国ドル通貨変換での年間平均をベースにしたものである
- 全ての推定値は収益の如何なるダブルカウントを排除をしたロイヤリティの正味値である
 - リセラーにより支払われたロイヤリティは各社のエンドユーザー収益から差し引きをし、適切なるプロバイダの推定値の直接的収益の中に含まれる
- 2022年に数字に影響を与える多くの買収がいくつかのセグメントにある
 - プレゼンの中で指摘する

アジェンダ

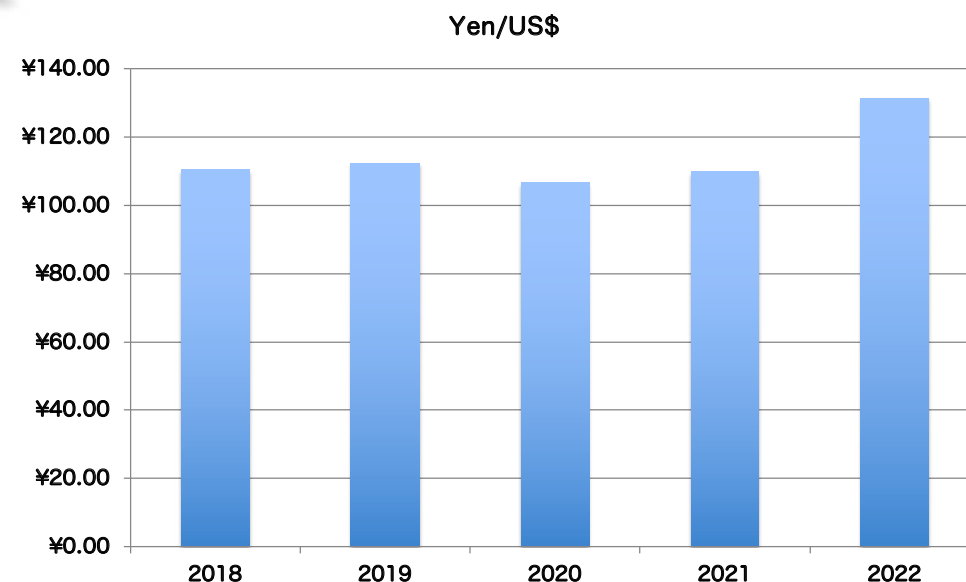
- 日本に於けるPLM投資
- 日本に於けるcPDm投資
- AP地域に於けるcPDmグローバル市場リーダー
- AP地域に於けるcPDm & S&A市場結果
- 日本市場レビュー
- 結び・所見 (Concluding Remarks)

日本に於けるPLMエンドユーザー投資 – 為替レート



グローバルビュー：為替レートに対する注意

- 2022年、対米ドル、大幅な円安基調
 - 2021年：¥109.77 (0.0091)
 - 2022年：¥131.44 (0.0076) **20%↓**
- 日本¥ vs. 米\$：PLM成長率&収益に見え方の差あり、2022年特に注意！
- 2022年に入り、円安急進！
 - 今までに無い新たな不安定要素も出現！
 - ただ為替は諸々の要素を含む国力相対評価



Y vs. \$

日本に於けるPLMエンドユーザー投資 - 2022年

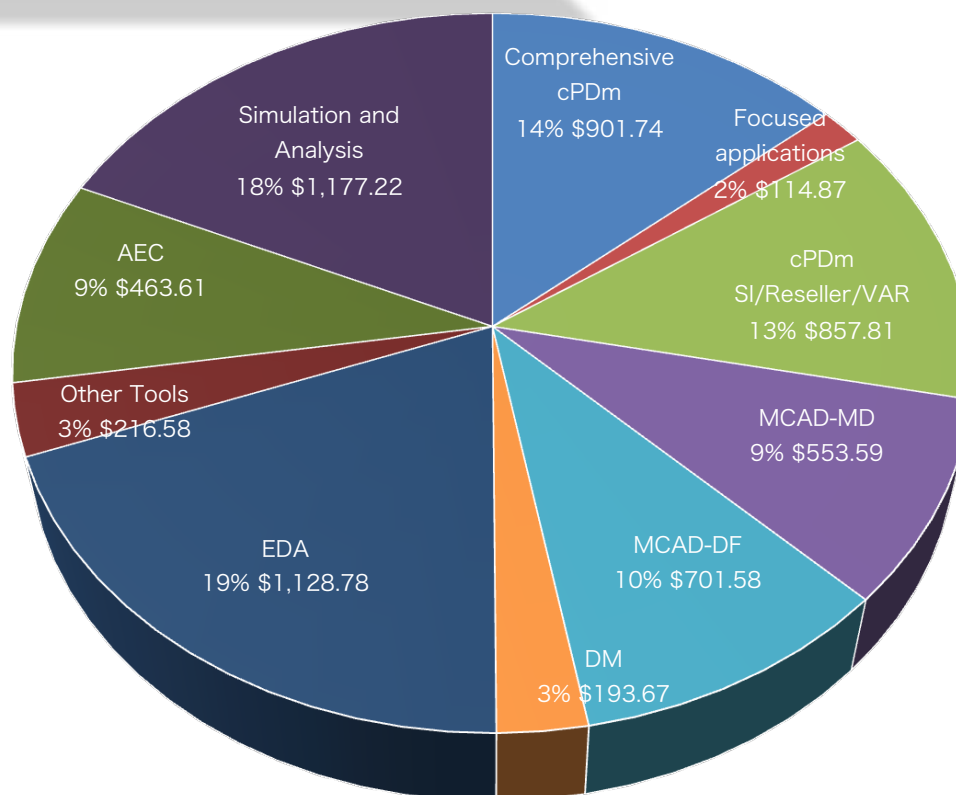


2022年、収益はおよそUS\$6,621m (Early preliminary report value – 速報値、本プレゼン全体を含む)

Revenues presented are CIMdata estimates

US\$6,621m規模 4.95%増
(2021年：US\$6,309m)

グローバル全体値から
日本の消費量を抽出



注：Non Bundled NCは入っておりません。

The data is temporarily number and subject to change

Copyright © 2023

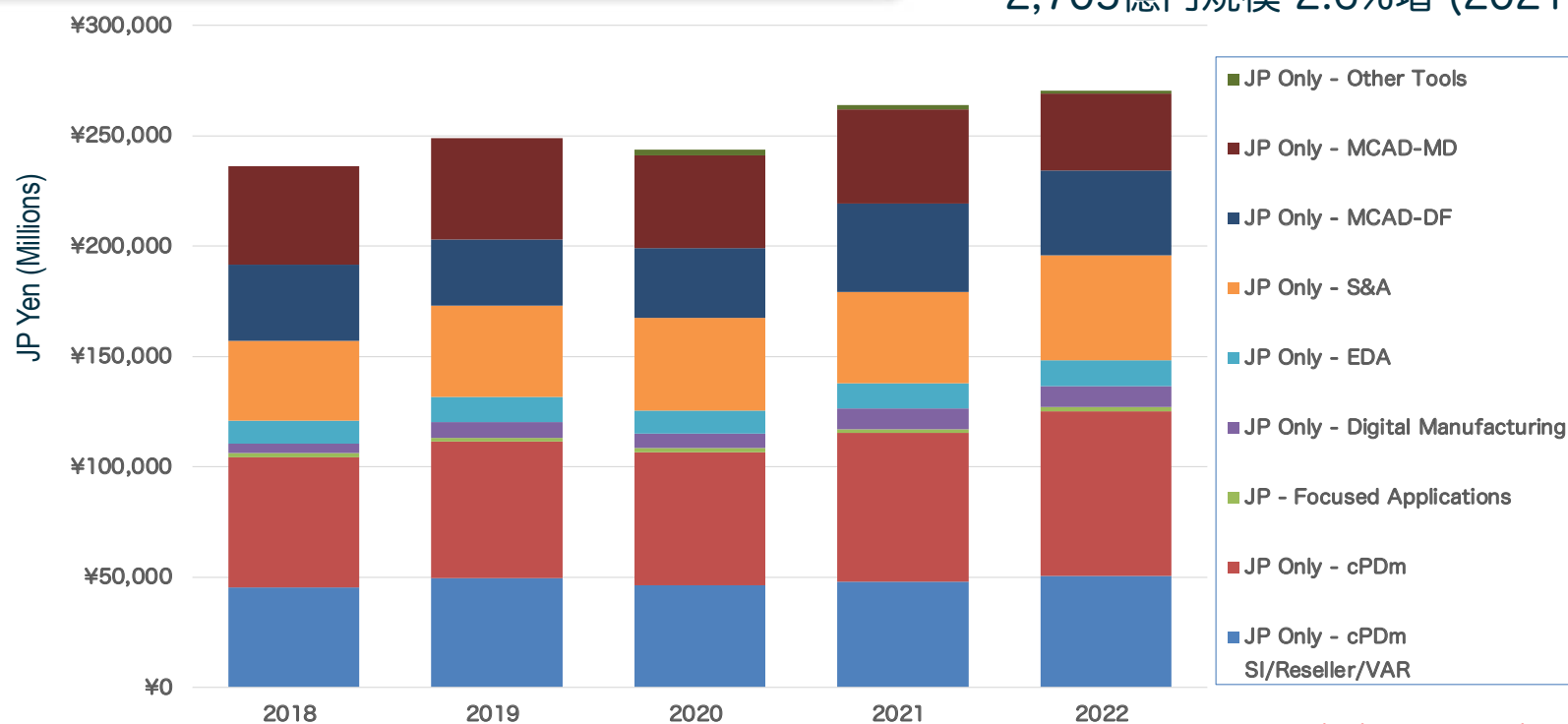
日本に於けるPLMエンドユーザー投資 - 2022年



企業の投資意欲、2022年を通して、デジタルトランスフォーメーションを追い風に進展

Revenues presented are CIMdata estimates

2,705億円規模 2.6%増 (2021年：2,637億円)



(国内のおよそSI/25社&cPDm Techベース)

The data is temporarily number and subject to change

Copyright © 2023

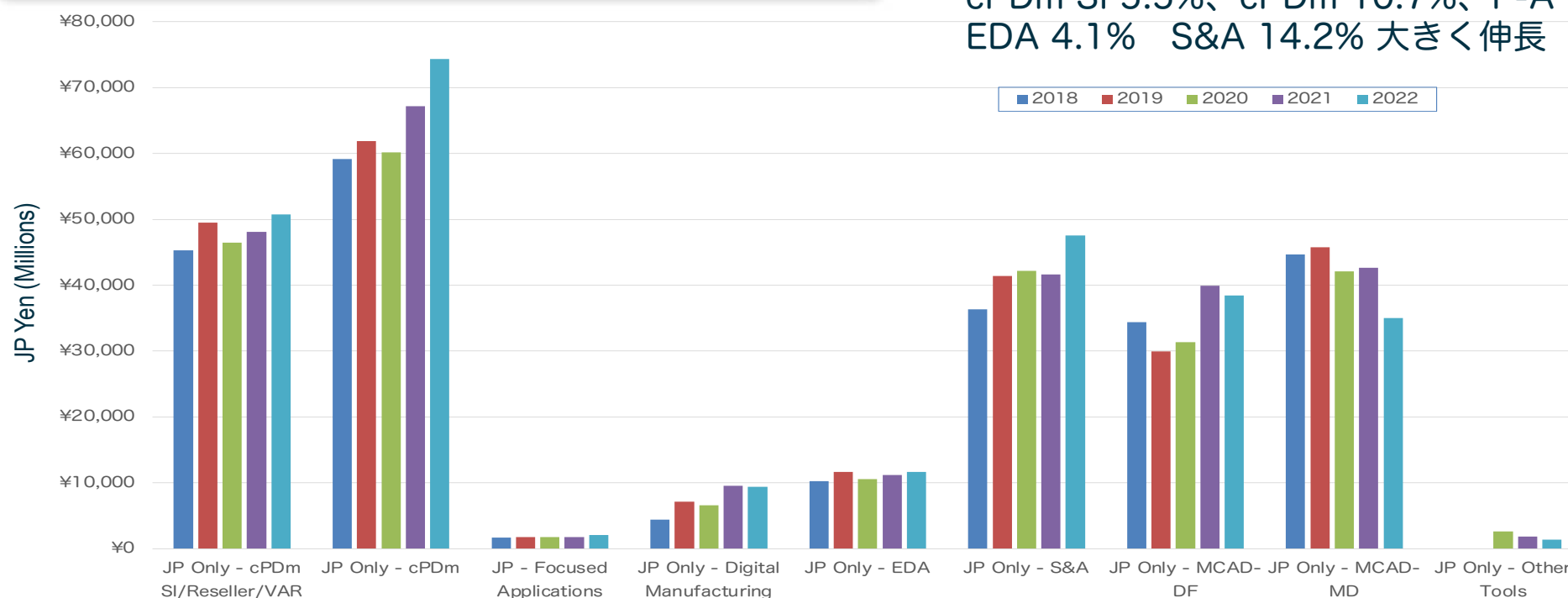
日本に於けるPLMエンドユーザー投資 - 2017~22年



企業の投資意欲、2022年を通して、デジタルトランスフォーメーションを追い風に進展

Revenues presented are CIMdata estimates

cPDm SI 5.5%、cPDm 10.7%、F-A 16.2%
EDA 4.1% S&A 14.2% 大きく伸長



(国内のおよそSI25社&cPDm Techベース)

The data is temporarily number and subject to change

Copyright © 2023

全体的なPLM投資 - 2022年



企業の投資意欲、2022年を通して、デジタルトランスフォーメーションを追い風に進展

- CAD、S&A
 - CAD-DFはCAD-MDに比較して伸長傾向、今後も続くと思われる
 - EDA – 電気、自動車、産業機器など回路&PCB含め統合に積極的な動き継続
 - S&A – 自動車、電気/通信など広範囲な領域で大きく増進傾向継続
- デジタルマニファクチャリング – 生産技術との連携、IoTリンク進展、手堅い分野
- 特定アプリケーション – xRなどの組み合わせで固有&即戦力アプリ、COVID-19も後押しだった
- cPDm – xBOM需要などで堅調継続、リフレッシュプログラムも、大中小問わず市場進展あり
- システムズインテグレータ (SI)
 - 収益構造、明らかな変化あり – ライセンス収益は過去の遺産か、サービス収益中心に
 - サービスの変化継続：実装中心 (BPO)から専門性ある技術や自社技術でのビジネス支援サービス (KPO)
 - 各社共に収益に直結する人財課題さらに深刻に、永遠のテーマにも、奪い合いよりも協調も
- その他Tools – 一昨年から掲載、各社数年の努力を経て、必須分野として成長、今後も期待

アジェンダ

- 日本に於けるPLM投資
- 日本に於けるcPDm投資
- AP地域に於けるcPDmグローバル市場リーダー
- AP地域に於けるcPDm & S&A市場結果
- 日本市場レビュー
- 結び・所見 (Concluding Remarks)

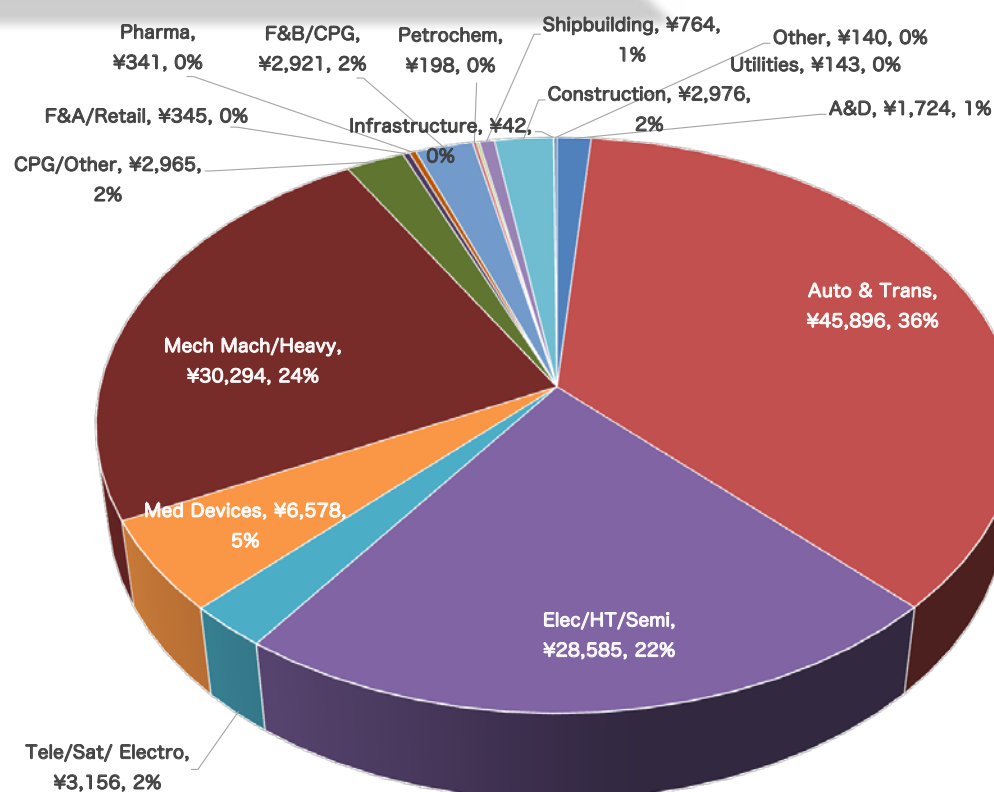
日本に於けるcPDm エンドユーザー投資 - 2022年



自動車関連、電気/電子、機械&重工、日本の基
幹産業は堅調

Revenues presented are CIMdata estimates

JP Yen (Millions)



1,270億円規模 8.6%増
(2022年：1,170億円)

(国内のおよそ5125社&cPDm Techベース)

The data is temporarily number and subject to change

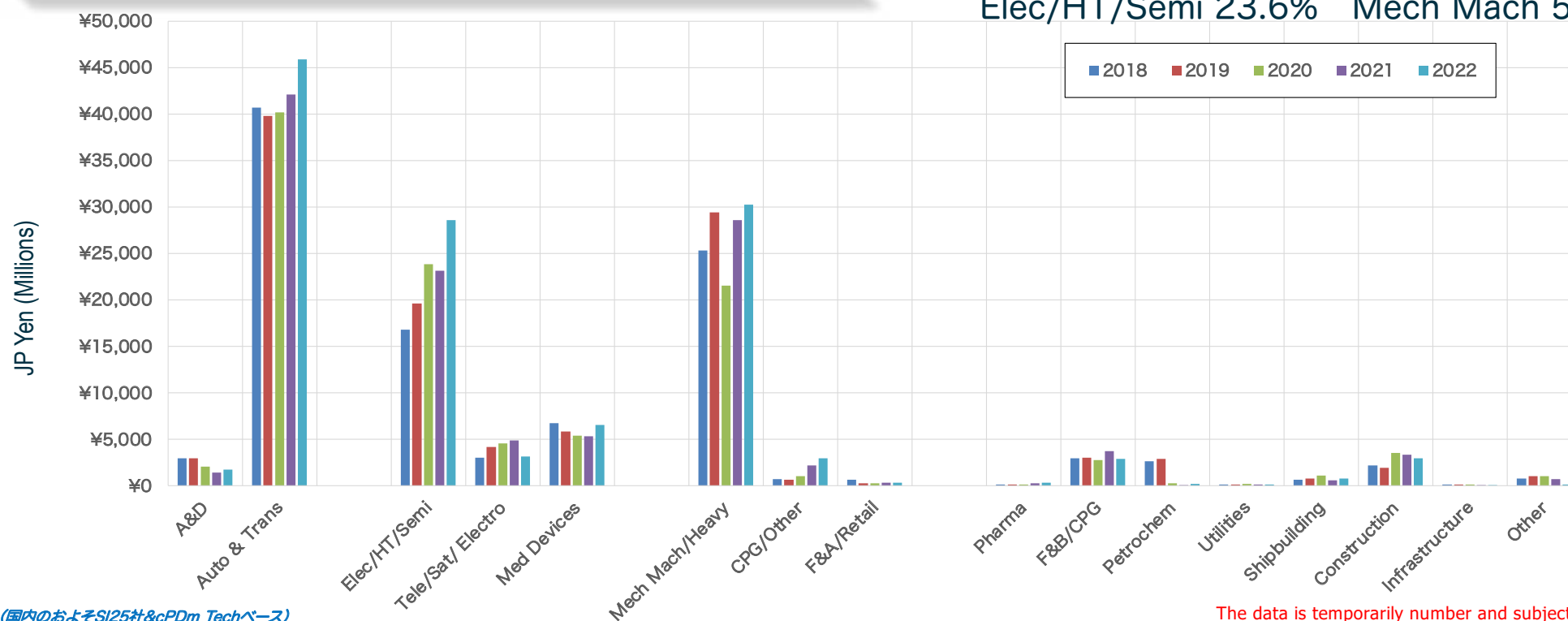
Copyright © 2023

日本に於けるcPDm エンドユーザー投資 - 2022年



自動車関連、電気/電子、機械&重工、日本の基幹産業は堅調

Auto & Trans 8.9% Revenues presented are CIMdata estimates
Elec/HT/Semi 23.6% Mech Mach 5.9%



(国内のおよそ5125社&cPDm Techベース)

The data is temporarily number and subject to change

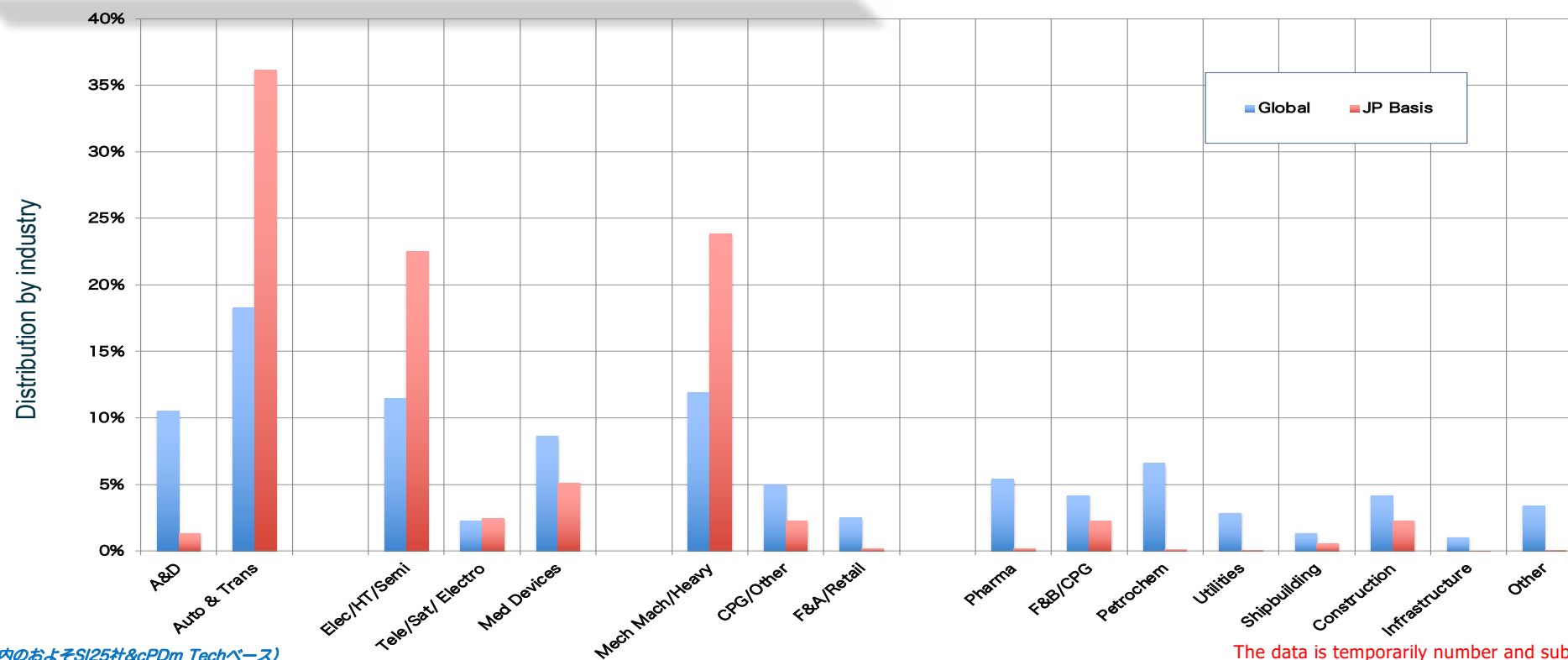
Copyright © 2023

日本に於けるcPDM エンドユーザー投資 - 2022年



業種別投資 (日本ベース vs. グローバル平均) -
産業構造の違い、未開拓分野多くあり

Revenues presented are CIMdata estimates



(国内のおよそ5125社&cPDM Techベース)

The data is temporarily number and subject to change

Copyright © 2023

日本に於けるcPDm エンドユーザー投資 - 2022年



状況は、地域や業種によって異なる、COVID-19
後、DXも支えられる

- 各業界、2021/2022年を経てCOVID-19から顧客努力と共に明らかに復帰してきた
- 日本の三大基幹産業 (稼ぎ頭)：グローバルと明確な違い
 - 自動車関連、過去5年、投資は様々な要因で堅調/増進傾向、日本経済の最大手の基幹産業
 - 機械装置組立&重工、傾向は自社車関連と同様
 - その昔、投資分布で大きく占めていた電子&電気、通信、ハイテック分野の投資分布は全体では下げ止まり、ここ数年、回復、堅調を示す、準大手&中堅も投資
 - 医療機器はPLM&サービスプロバイダ各社の努力の継続
- F&A/Retail、その他、多くの業種にまだまだグリーフィールド多くあり
 - Petrochemical、Utility、Construction、Infra.
- 80% vs. 20% これからは20%の産業に対する挑戦が必要：業界ビジネスプロセスが異なる
 - DXを始めとする、IoT、xR、AIなどテクノロジートレンドをもって啓蒙継続
 - PLMとしてフロントにいない専門ソフトウェア/サービスプロバイダー各社、自社保有ノウハウを展開

アジェンダ

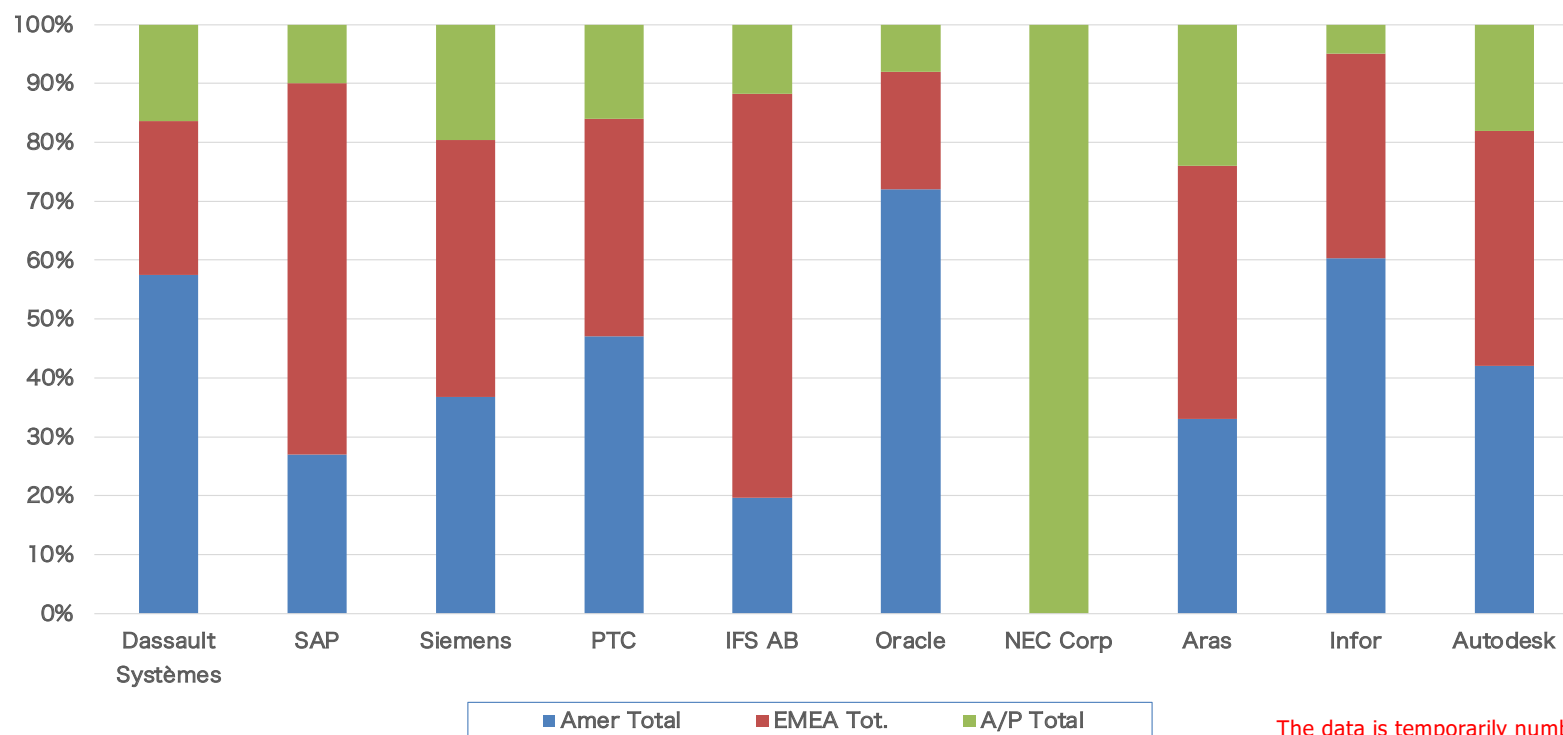
- 日本に於けるPLM投資
- 日本に於けるcPDm投資
- AP地域に於けるcPDmグローバル市場リーダー
- AP地域に於けるcPDm & S&A市場結果
- 日本市場レビュー
- 結び・所見 (Concluding Remarks)

cPDm収益リーダー：グローバル



地域別収益分布率 - 2022年 (直接収益のみ)

Revenues presented are CIMdata estimates



The data is temporarily number and subject to change

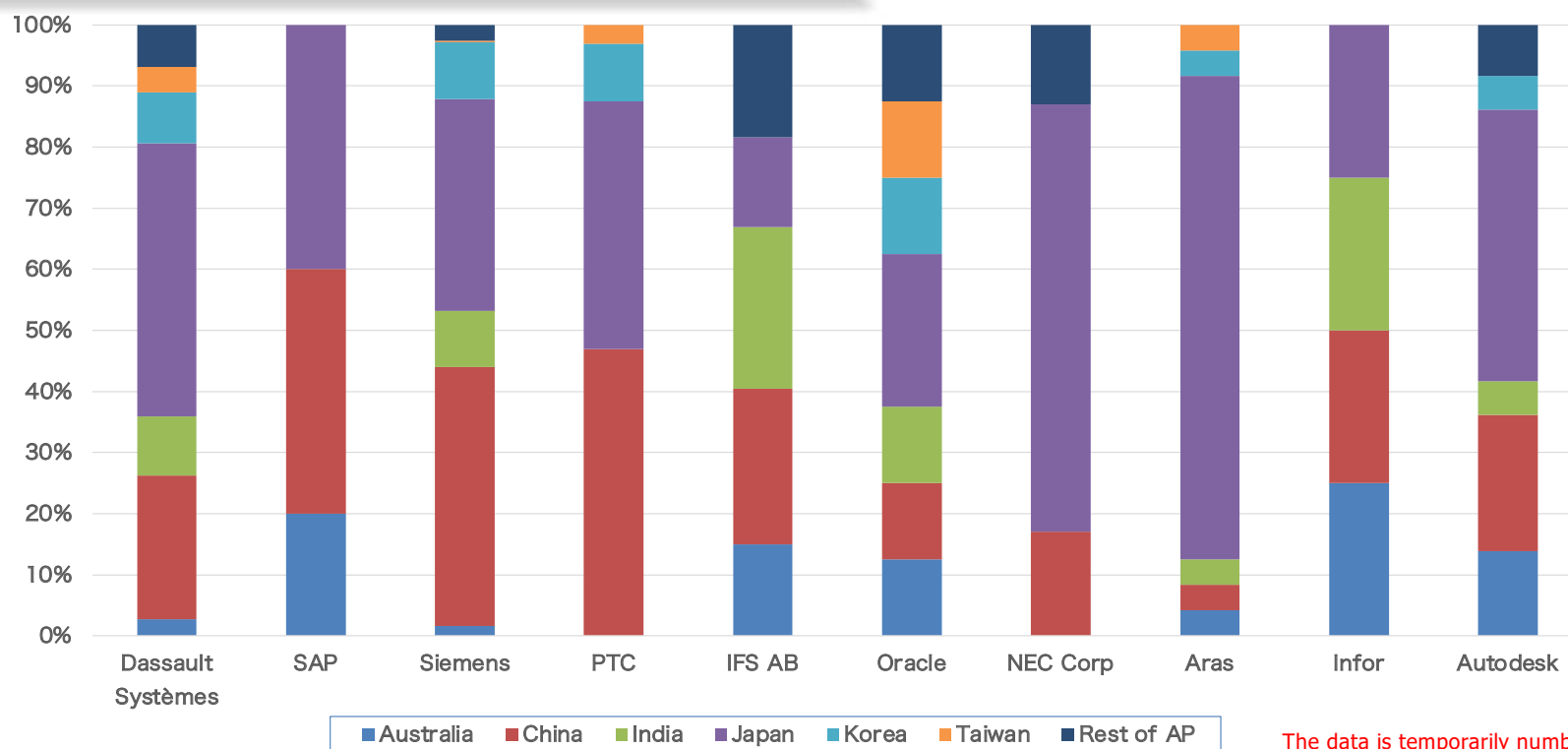
Copyright © 2023

cPDm収益リーダー：AP



AP国別収益分布率 - 2022年 (直接収益のみ)

Revenues presented are CIMdata estimates



The data is temporarily number and subject to change

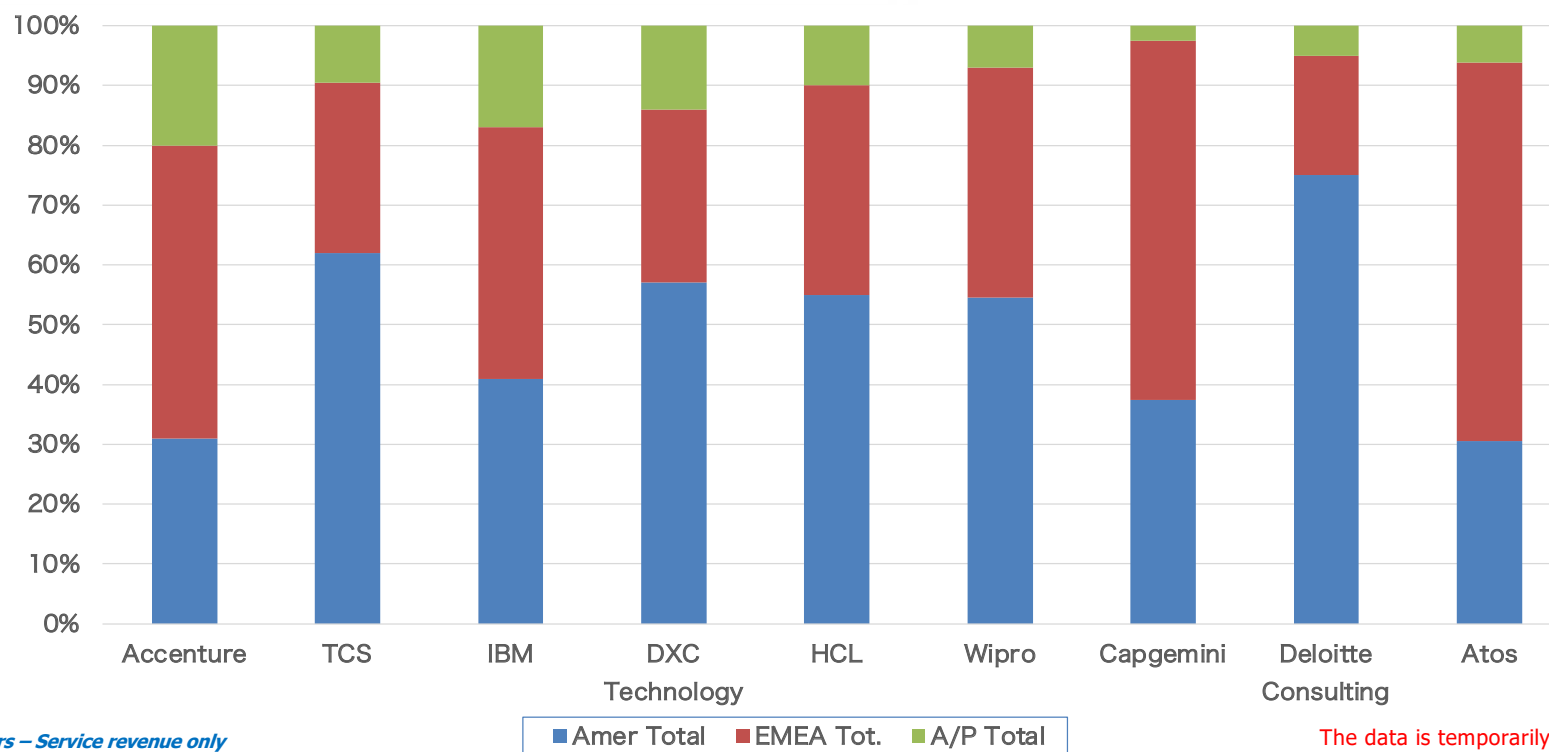
Copyright © 2023

cPDm収益リーダー：グローバル



地域別収益分布率 - 2022年（直接収益のみ） -
独立系サービスプロバイダー

Revenues presented are CIMdata estimates



Over 200M\$ Providers – Service revenue only

The data is temporarily number and subject to change

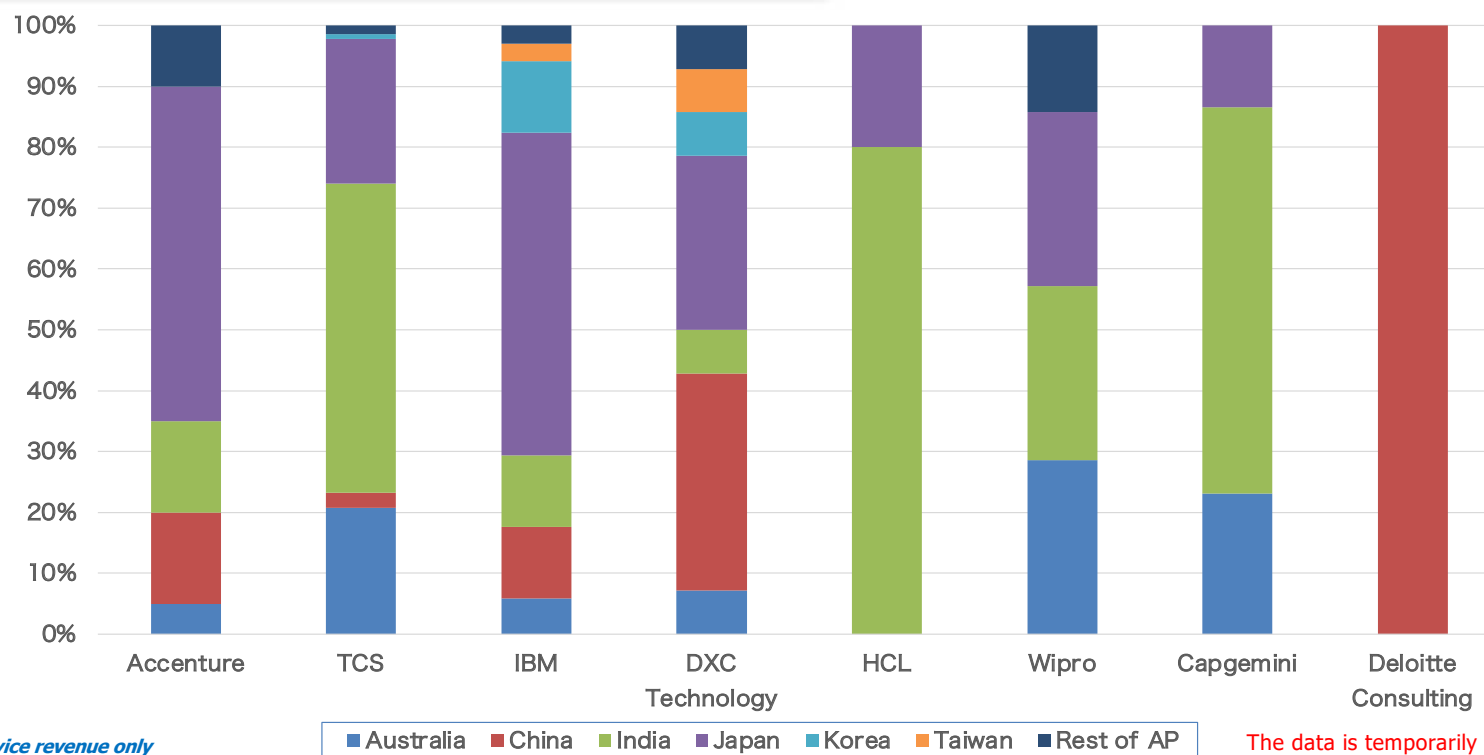
Copyright © 2023

cPDm収益リーダー：AP



AP国別収益分布率 - 2022年（直接収益のみ） -
独立系サービスプロバイダー

Revenues presented are CIMdata estimates



Over 200M\$ Providers – Service revenue only

The data is temporarily number and subject to change

AP地域に於けるcPDmグローバル市場リーダー



各社の歴史的背景によって異なる

• ソフトウェアプロバイダ

- Dassault Systèmes – グローバルはバランス良く分布
- SAP – グローバルはEMEA強し、長期&既存ERPの実績に牽引される、最近のSiemensとの提携に注目
- Siemens- グローバルはバランス良く分布、APも各国の産業・工業力にほぼ比例、自社が α/β サイト
- Oracle – グローバルは北米に大きく偏る、APは各国の電機産業中心に
- PTC – グローバルは北米&EMEAは中心、APは伝統的に若干中国だが最近、日本の比率増大

• 独立系サービスプロバイダ

- Accenture / IBM は3極バランス良く、APでは伝統的に支配的地位にある
- インド系が躍進継続、とりわけ北米&EMEA、おそらくBPOの範疇
 - TCS、HCL (Geometric)、Wipro、いずれもソフトウェア産業進出は80年代で後発である。インドの大きな数字はグローバルからのアウトソーシング
- Deloitte Consulting / Capgemini & ATOS は各社の地獄的背景 (NA vs. EMEA) が明瞭に

アジェンダ

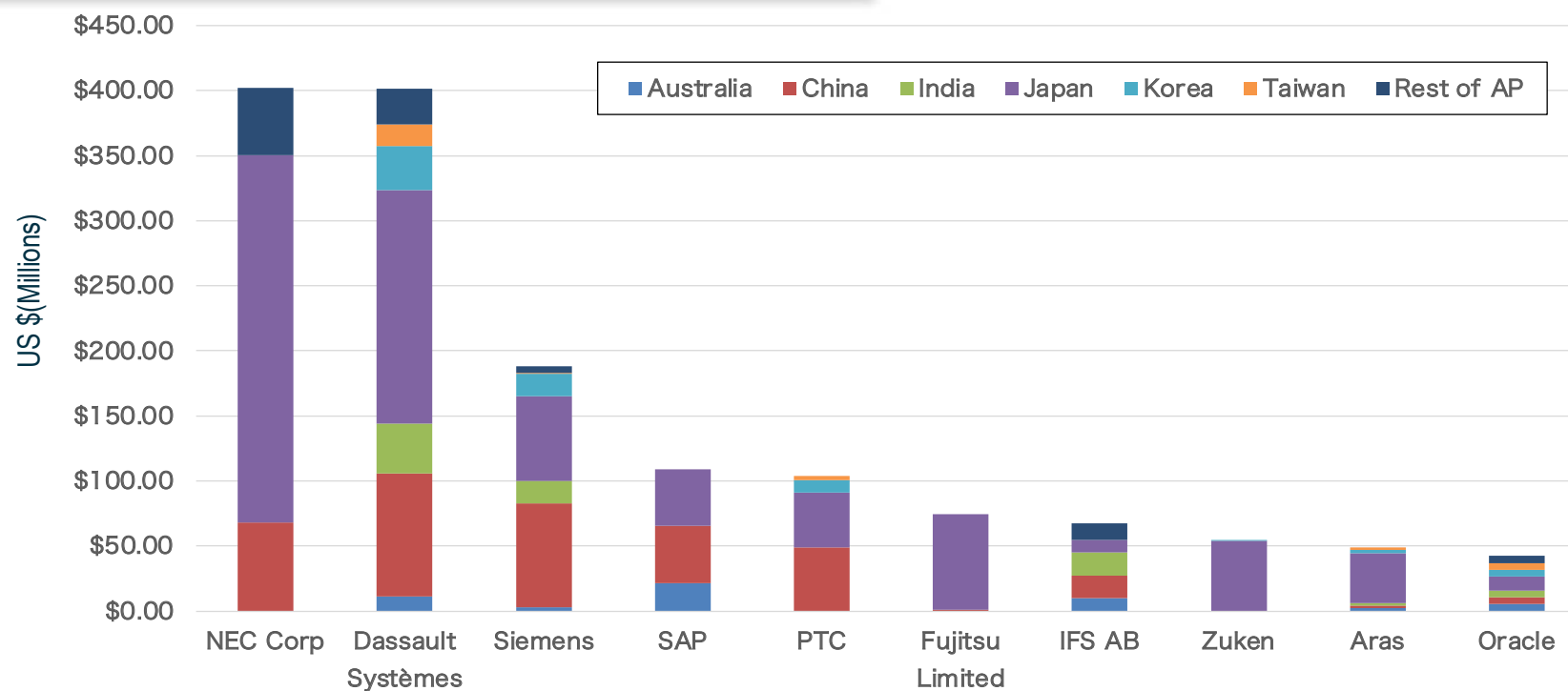
- 日本に於けるPLM投資
- 日本に於けるcPDm投資
- AP地域に於けるcPDmグローバル市場リーダー
- AP地域に於けるcPDm & S&A市場結果
- 日本市場レビュー
- 結び・所見 (Concluding Remarks)

AP地域におけるcPDm市場の結果



AP cPDm 収益リーダー – 2022年
(直接収益のみ)

Revenues presented are CIMdata estimates



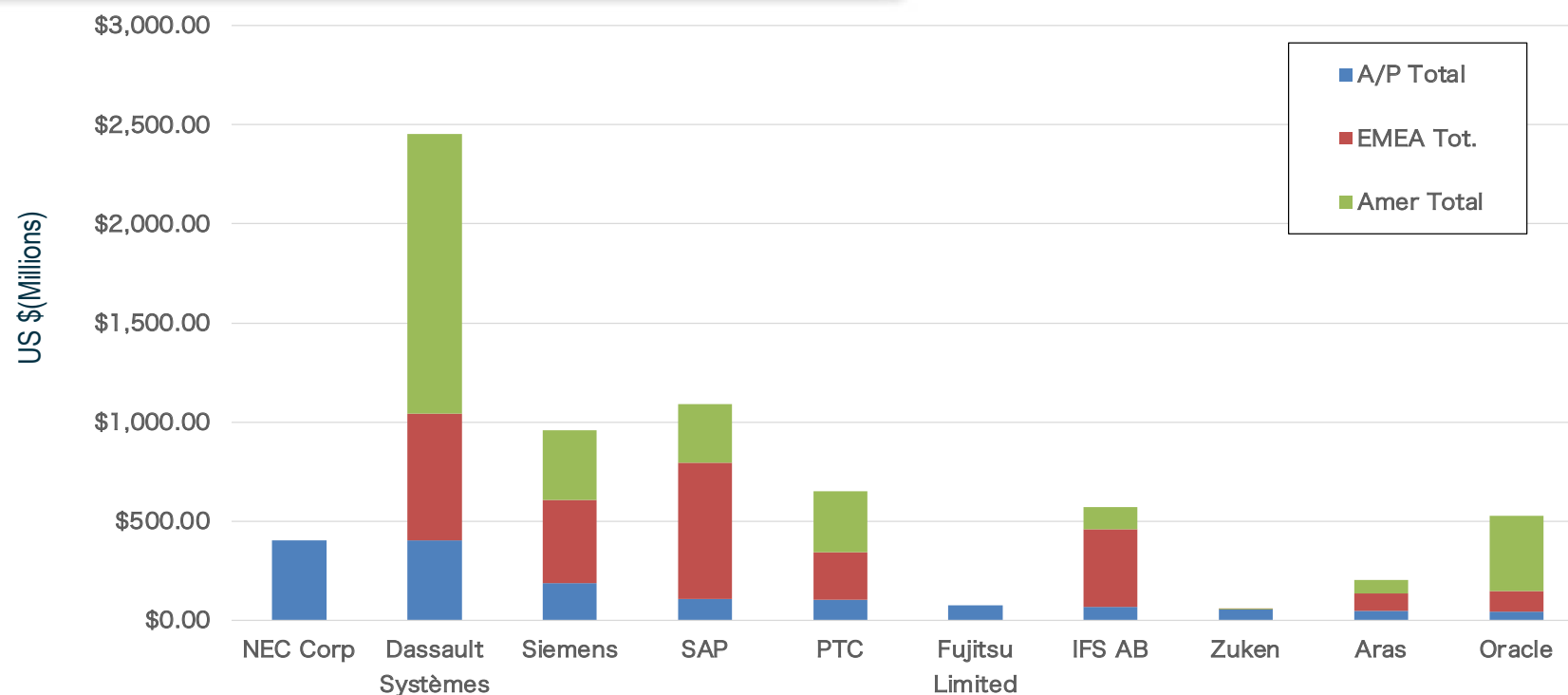
The data is temporarily number and subject to change

AP地域におけるcPDm市場の結果



AP cPDm 収益リーダー – 2022年
(直接収益のみ) – グローバルビュー

Revenues presented are CIMdata estimates

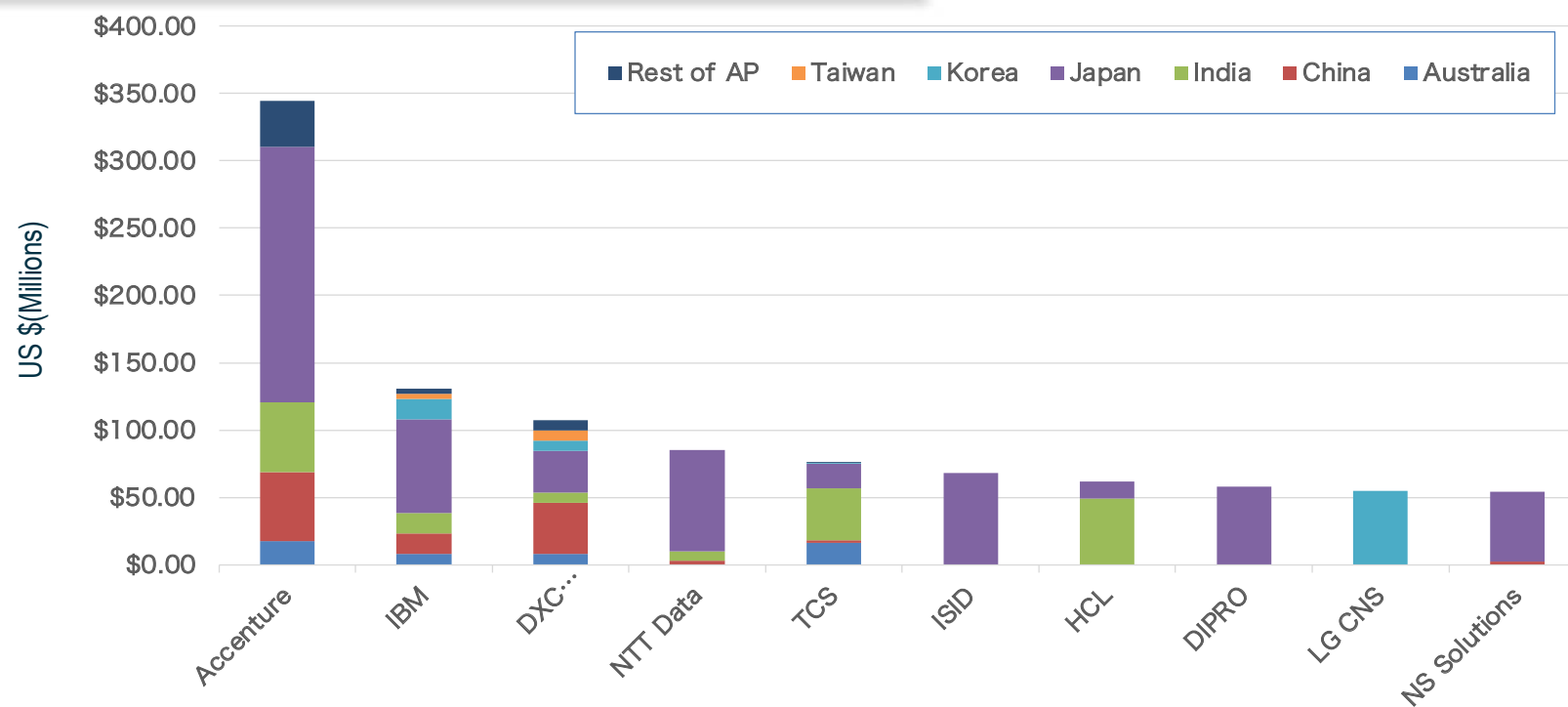


AP地域におけるcPDm市場の結果



AP cPDm 収益リーダー – 2022年
(SI/VAR/Reseller)

Revenues presented are CIMdata estimates

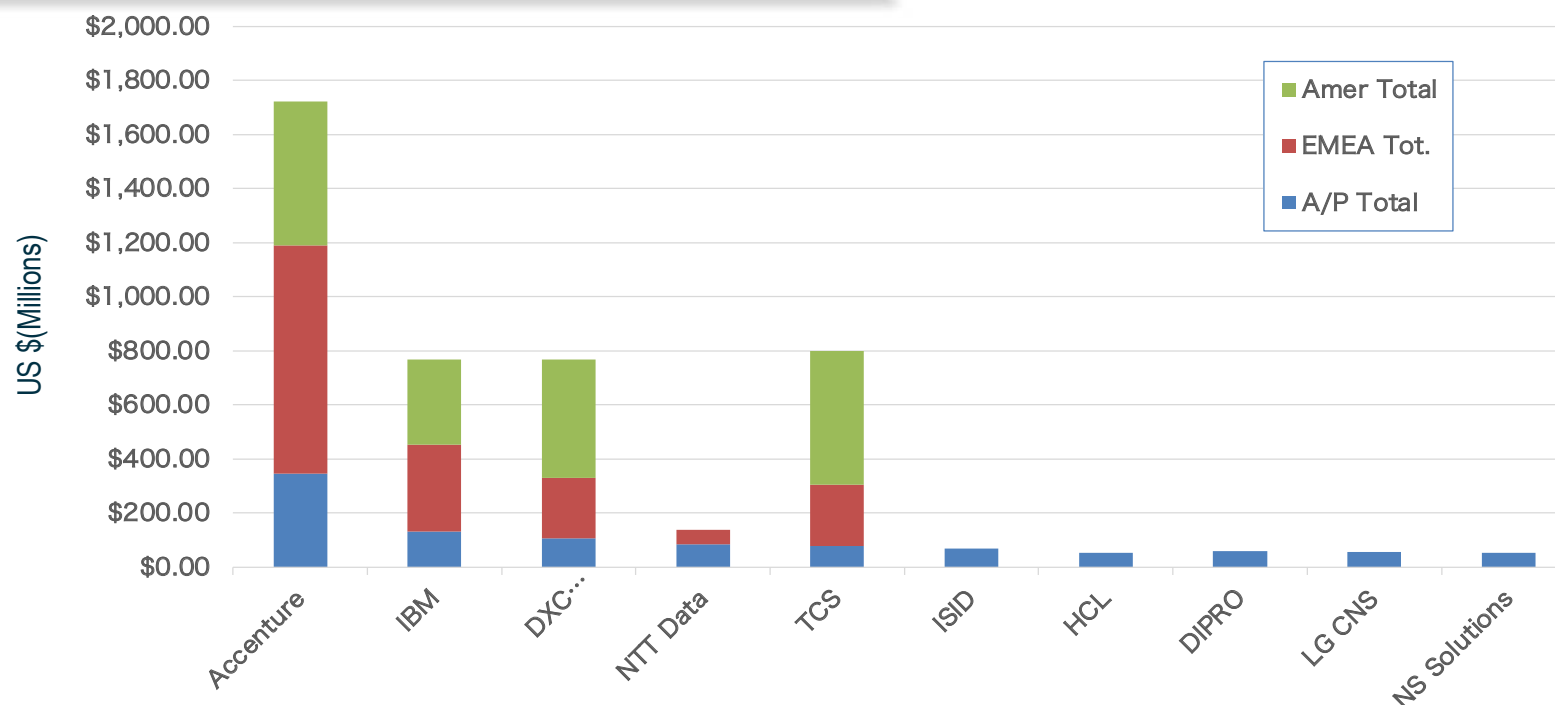


AP地域におけるcPDm市場の結果



AP cPDm 収益リーダー - 2022年
(SI/VAR/Reseller) - グローバルビュー

Revenues presented are CIMdata estimates



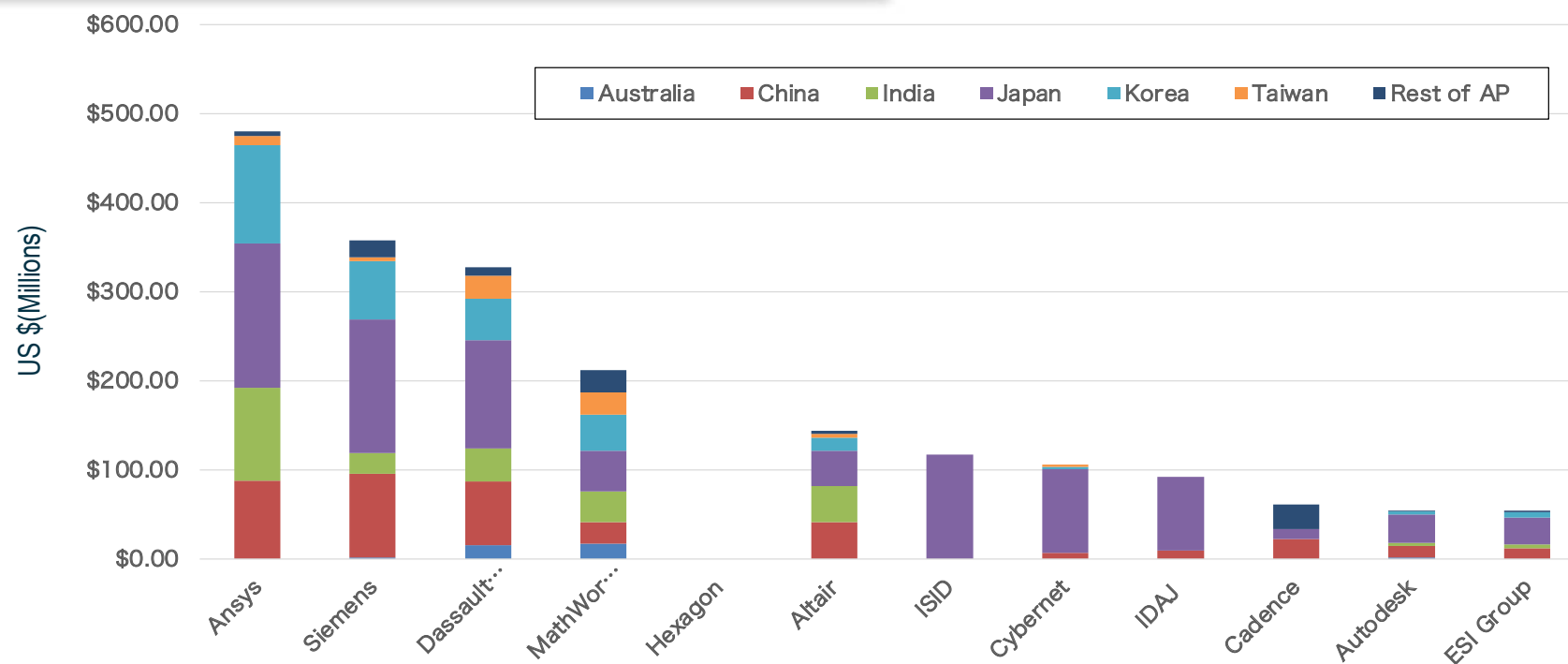
The data is temporarily number and subject to change

AP地域におけるcPDm市場の結果



AP S&A 収益リーダー – 2022年 (全セクター)

Revenues presented are CIMdata estimates

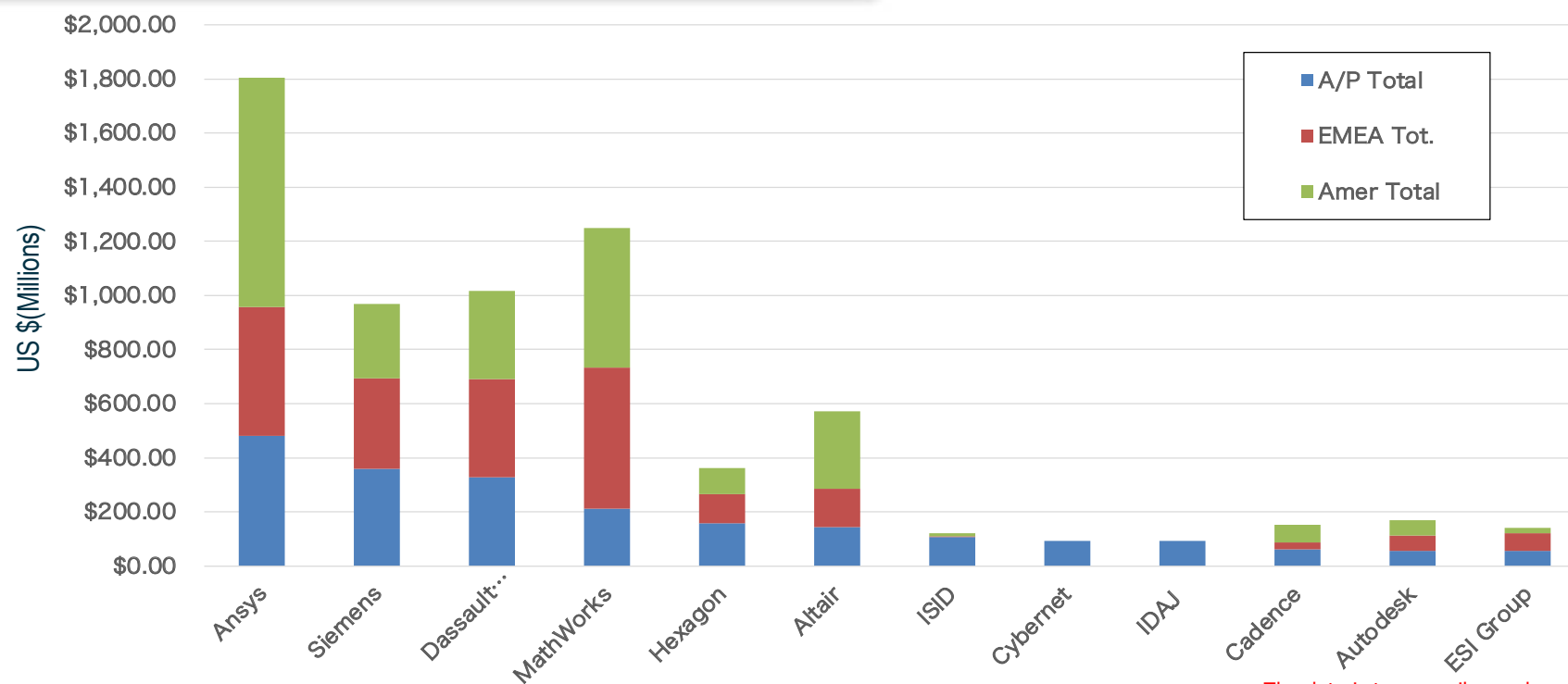


AP地域におけるS&A市場の結果



AP S&A 収益リーダー – 2022年 (全セクター) –
グローバルビュー

Revenues presented are CIMdata estimates



AP地域に於けるcPDm & S&A市場結果（日本を中心に）



各社の歴史的背景によって異なる

- cPDmプロバイダ
 - 自前ソリューションを活かし、国内顧客に首尾よく対応し、また中堅・中小市場含め展開拡大
- 独立系SI/VAR/Reseller
 - 国内SIs各社は顧客の前面に立ち、日本企業を細やかに支援、各社の競合&協業もあり
 - 現場経験をもったの専門技術領域のビジネス戦略がさらに効果的に進展、x BOM、xRなど
- S&A – 日本の消費量かなりあり、数字に現れない部分も多し
 - 独立系100社規模 (数億～20億規模)、得意分野の専業会社、今後の展開が鍵、また買収の対象にも
- 全体
 - グローバルリーダーは日本市場でも活躍し、さらに世界市場では圧倒的
 - 日本ローカル、日本発の国産cPDm、SIともに国内ユーザーのグローバル化にも貢献
 - APで視れば、国産/国内系各社、ダントツであるもののグローバルリーダーに大きな差あり
 - 日本国内市場、未だ全体的な市場はERPに比べれば小規模 - 今後の戦略課題

アジェンダ

- 日本に於けるPLM投資
- 日本に於けるcPDm投資
- AP地域に於けるcPDmグローバル市場リーダー
- AP地域に於けるcPDm & S&A
- 日本市場レビュー
- 結び・所見 (Concluding Remarks)

日本市場レビュー：PLM MAR – 皆様のご意見



DX、SDG、xBOM、日本発… (1 / 5)

- 市場・マーケット：DX…、SDG、MBE、MBD、MBSE、xBOM、xR、5G、…
 - EBOMを製品ライフサイクルを通して有効/全社活用する – DXの一環
 - EBOMからMBOM, BOP, そしてSBOMの連携、加えて150%BOMの理解・浸透
 - すなわち、PLMをよりERP/MESを連携、そして統合での全体パフォーマンスを追求する
 - 営業活動では、生産管理/MESを含む全体のデータ連携の広い提案が求められている
 - 一方、中堅/SMBでは、図面管理/文書管理/CAD連携などから、まずできるところを！
 - サブスクリプション、クラウド、SaaS、…
 - 浸透している、またテクノロジープロバイダの言うほど進んでない、との意見あり
 - 適用分野/業界やサプライチェーンの構造により様々あり、しかし着実に進展している
 - CAD市場
 - CAD-MD (効果) は伸び悩み、CAD-DFへの移行案件で売上伸長
 - 中堅では、(3Dから) 2Dを作成、3D適用はまだ多くの模索あり (以前も先行企業で課題)

日本市場レビュー：PLM MAR – 皆様のご意見



DX、SDG、xBOM、日本発…(2 / 5)

- テクノロジー：DX…、SDG、MBE、MBD、MBSE、xBOM、xR、5G、…
 - アドオン、カスタマイズ的手段として、ローコード/ノーコード、アジャイル開発
 - 日本企業、欧米企業と異なり、エンドユーザーからのUI評価が重要：SIの責務
 - 過去のようにパッケージの中ではなく、外付けで対応、ユーザー側も理解するように
 - カスタマイズ案件においてアジャイル&ローコードでの構築例が増えつつある
 - ツールや製品自体における新たな潮流や市場拡大/拡散はみられない、ただし、
 - 効率化・自動化に向けたアドオン開発や適用/活用サービスに伸長あり
 - それらには、AI、RPA、またxRなど
 - 1D-CAEでCAE→CADの流れ、トレンドの変化。PDCAサイクルも変わる
 - PLMで、SE、MBSE、MBD、そしてMBEプロセスを活用&統合してデリバリー
 - 課題は、それぞれの領域で、ソリューションプロバイダーの力不足も指摘される

日本市場レビュー：PLM MAR – 皆様のご意見



DX、SDG、xBOM、日本発…(3 / 5)

- 全般コメント：DX…、SDG、MBE、MBD、MBSE、xBOM、xR、5G、…
 - 2022年、売上増、また販管費増、…決算/四半期レポートなどからも明確
 - ツール (MCAD-DFやサブスクリプション含め) やSIの伸長あり、また人件費アップも
 - ただし、リセラービジネスではライセンス保守の減少進む、また直の販売も
 - エンドユーザーのDXのうねりに首尾よく対応 – PLMへの視線、現場は事業の柔軟性に必要性
 - 複合的で広範囲な提案 (経験) が求められる、…ERP/MES/Smart Factory, …
 - 多様化するニーズに向けて即効的かつ統合的なソリューションとしてPLMのシステムを提案
 - 下流の生技DX、工場DX、サービスDXにPLM情報を活かす
 - AI/アナリティクスなど新領域、強みのある企業と資本提携や戦略的パートナーシップ
 - ただ、DXについては理解・適用に温度差あり、理想形ではなく、あくまで現場&現実
 - 製造事業の利益率の改善：新たな自社製品の創出&開発
 - リソース不足：製造業プロセス経験 “^” PLM経験 = 非常に限られる

日本市場レビュー：進展、変化、そして日本発



DX、SDG、xBOM、日本発…(4 / 5)

- メーカー化：自社の経験、知見をリファインして新たなソリューション
 - 昨年のPMIF：(ケーススタディ：5年後に300億企業へと、A社、投資家向け)
 - 顧客層拡大、収益拡大、そしてリスク低減 – そのために自社でQCDを制し、製品創出
 - 自社製品収益 vs. リセラー製品収益を、50% vs. 50% へと
 - かなり以前から取り組み、最近それを伸長させ、ビジョンに掲げるようになった
 - 特に目新しいアプローチではない、しかしプロバイダは自らの経験&知見で新たに
 - その背景に諸々も背景あり：それは上記の一社ではなく業界全体の傾向
 - テクノロジープロバイダ製品 (≒既製品) vs 顧客要件
 - テクノロジープロバイダとの契約切れ (直の販売も)、あるいは保守収益の減少
 - テクノロジープロバイダ製品のフロントに立ち、現場の顧客に長年寄り添ってきた結果として、幸いにも自社に多大な現場プロセスが蓄積された、それはBPOでなくKPOにも

日本市場レビュー：進展、変化、そして日本発



DX、SDG、xBOM、日本発…(5 / 5)

- (～続き) 最近の参考例 (所謂、PLM事業の一環) :
 - BIPROGY (日本ユニシス) - 自動運転車の安全性評価のためのプラットフォーム DIVP®
 - DIPRO - ハード・ソフト統合管理プラットフォーム「HW-SW 統合BOM」
 - ISID - iQUAVIS (アイクアビス) 強化&リーチ拡大 (注：24年1月、電通総研に社名変更)
 - NSSOL- NSBeats (業務ソリューション/プロジェクト推進方式／システム技術の体系)
 - 東芝デジタル Sol. - ものづくりIoTデータ活用ソリューション Meister Apps™など
 - しかし、例外的にクボタシステムズについて知っておく必要あり：他社も可能性あり
 - …クボタは25年を最終年度とする中期経営計画でデジタルトランスフォーメーションの推進を掲げており、クボタシステムズの吸収で開発人員を確保… (2022.7 プレスリリース)
- “デジタルスレッド” について (用語として)、グーグル検索から
 - テクノロジープロバイダ：マーケティング用語としてはメディア含めて連呼、浸透
 - しかし、伝統的な国内サービスプロバダやエンドユーザー組織ではまだ浸透していない

日本市場：2021年ハイライト (プレスリリース)



企業体質改善、ブランド拡大、M&A、サステナビリティ、PLM/xR/MBx、...DXは至る所に (1 / 3)

- 2022.1.25：DX への第一歩!ローコード/ノーコード開発で業務のデジタルシフトを実現 (日本ユニシス)
- 2022.1.28：AIなど最先端テクノロジーの社会浸透・信頼確保の実現を目的とした、AI倫理ガバナンス室の新設 (富士通)
- 2022.2.8：富士通とカーネギーメロン大学、社会や経済における課題を解決するソーシャルデジタルツインの共同研究を開始
- 2022.2.10：富士通グループのDXビジネス拡大に向け、富士通オーストラリアがMicrosoft Gold Partnerのoobe社を買収
- 2022.2.22：グローバルサプライチェーン計画を活用したCO2排出予定可視化ソリューション提供開始し (NTT DATA)
- 2022.4.4：NTT DATAによるブルガリアBusiness Services and Technologies社の買収について
- 2022.4.5：富士通オーストラリア、クイーンズランド州政府などとデジタルインクルージョンを推進するパイロットプログラムを開始
- 2022.4.18：インドに新たな研究拠点を設立し、インド工科大学ハイデラバード校やインド理科大学院と先端AI技術の共同研究を開始 (富士通)
- 2022.4.19：デジタルツイン共創プログラムを開始 (NTTdata)
- 2022.4.20：ライオンと日立がDXで製品開発時間を短縮 (日立製作所)
- 2022.4.22：ISIDと電通と富士通、企業の継続的な事業成長、および環境社会課題の解決に向けて戦略的協業に合意
- 2022.4.25：次世代自動車システム開発・運用プロセスを変革する新たなテクノロジーの提供開始 (株式会社NTTデータ)
- 2022.4.27：日本製鉄グループ、無線IoTセンサ活用プラットフォーム「NS-IoT」を構築 製鉄所のセンサデータを一元管理し、統合ビッグデータによる異常検知・トレンド監視を実現
- 2022.6.2：NTT DATAによる米国Postlightの買収について (NTT DATA)
- 2022.6.3：スマートシティの普及展開・実装加速に向けた「スマートシティ社会実装コンソーシアム」を設立 (NEC)
- 2022.6.15：英国での新たなイノベーション拠点「C-CAT」の設立に向け、2,200万ポンドを投資 (富士通)
- 36. 2022.6.20：NEC、PLMクラウドサービス「Obbligato for SaaS」を強化

日本市場：2021年ハイライト (プレスリリース)



企業体質改善、ブランド拡大、M&A、サステナ
ビリティ、PLM/xR/MBx、...DXは至る所に (2 /
3)

- 2022.6.21 : AVEVAとNEC、プロセス産業の工場のDX推進に向けた協業を開始 (NEC)
- 2022.6.22 : Hexagonと富士通、持続可能な社会「Trusted Society」の実現を目指しデジタルツイン技術領域で提携
- 2022.6.30 : ルーマニアのシビウに新拠点開設 (NTT DATA)
- 2022.7.12 : インペリアル・カレッジ・ロンドンと日立が、脱炭素・自然気候ソリューションの開発加速に向けて共同研究センターを設立
- 2022.7.15 : リコー、図研のPDMにより電気設計環境の刷新
- 2022.8.5 : 屋内外のパーソナルモビリティ自律走行の実現に向けデジタルツインの構築と実証を本格的に開始 (日立製作所)
- 2022.8.17 : 部品需給情報のリアルタイム共有・サプライヤー参画を支援するサービスの提供開始 (NTT DATA)
- 2022.8.19 : グローバル6カ国に「イノベーションセンタ」を設立 (NTT DATA)
- 2022.8.31 : NTT DATAによるドイツNativion社の買収について (NTT DATA)
- 2022.9.6 : 日立、MESやSCADAなど製造現場系OT・ITが主力の米国SI企業を買収
- 2022.9.6 : 新会社「V-Drive Technologies 株式会社」を設立し、自動運転車の安全性評価のためのプラットフォーム DIVP®を提供 (BIPROGY)
- 2022.9.6 : NSSOLとエスタイルが資本業務提携契約を締結
- 2022.9.16 : 富士通と仏Phytocontrol Groupが「CaaS」サービスで戦略的協業
- 2022.9.20 : 積水化学と日立、材料開発におけるMI推進に向け、先進デジタル技術を用いた協創を開始
- 2022.9.21 : NTT DATAによる米国Apiseroの買収について
- 2022.9.27 : 東芝、アクセンチュアとグリーントランスフォーメーションコンサルティングサービスを開始
- 2022.9.28 : NTT DATAによるメキシコUmvelの買収について

日本市場：2021年ハイライト (プレスリリース)



企業体質改善、ブランド拡大、M&A、サステナビリティ、PLM/xR/MBx、...DXは至る所に (3 / 3)

- 2022.10.5：GlobalLogicがメキシコにエンジニアリングセンター2拠点を開設 (日立製作所)
- 2022.10.11：循環経済社会の実現に向けて、日立-産総研サーキュラーエコノミー連携研究ラボを設立
- 2022.10.14：NTT DATAによる米国Aspirentの買収について
- 2022.11.2：ServiceNow JapanとNEC、NECのDXの推進とお客様のDXを支援する戦略的協業を加速
- 2022.11.14：ISIDとOZ1、持続可能なスマートシティの実現に向けて業務提携契約を締結
- 2022.11.25：ISIDとウフル、スマートソサエティの実現に向けて資本・業務提携
- 2022.11.28：データ&セキュリティ領域のさらなる強化に向けたイスラエルの新研究拠点設立について (富士通)
- 2022.11.28：NEC、玉川事業場にグローバルでのイノベーション創造拠点「NECイノベーション新棟(仮称)」を建設
- 2022.11.29：Hexagonと富士通、シュトゥットガルト市において都市課題解決に向けたデジタルツイン・プラットフォームを提供開始
- 2022.12.1：タイ国Round Two Solutions社との資本業務提携契約締結に関するお知らせ (NSSOL)
- 2022.12.9：日本・イギリス・イタリアによる次期戦闘機の共同開発について (三菱電機)
- 2022.12.9：35社とCO2排出量データの交換を検証し、サプライチェーン全体の見える化 (NTTデータ)
- 2022.12.14：グローバル企業におけるサステナビリティ・トランスフォーメーション (SX) の動向を調査 (富士通)
- 2022.12.20：NEC、データドリブン型ものづくりを実現するものづくりDXの製品群を強化・拡充

これはホンのわずか、他、多くのニュースあり！特に2022年は協業、M&Aが目立つ

業界News - PLM日本語プレスニュース・アーカイブ https://www.metalinc.com/PLM_NEWS/

アジェンダ

- 日本に於けるPLM投資
- 日本に於けるcPDm投資
- AP地域に於けるcPDmグローバル市場リーダー
- AP地域に於けるcPDm & S&A市場結果
- 日本市場レビュー
- 結び・所見 (Concluding Remarks)

結び・所見



再度 - こららを考慮！

- 2021/2022年を経てCOVID-19から顧客努力と共に明らかに復帰
- 2022年、売上増、また販管費増、…決算/四半期レポートなどからも明確
- EBOMを製品ライフサイクルを通して有効/全社活用する – DXの一環、正常進化！
- 複合的で広範な提案 (経験) が求められる…ソリューションプロバイダの力不足も
- アドオン、カスタマイズ的手段として、ローコード/ノーコード、アジャイル開発
- 製造事業の利益率の改善：新たな自社製品の創出&開発 – メーカー化
- 2022年、業界内の提携、買収が例外的に多かった！
- リソース不足：製造業プロセス“^” PLM経験 = 非常に限られる
- デジタルスレッドについて (用語として) の温度差 – 業界の努力・協調が必要

Q&A

CIMdata



皆さんのご意見やお考えは？

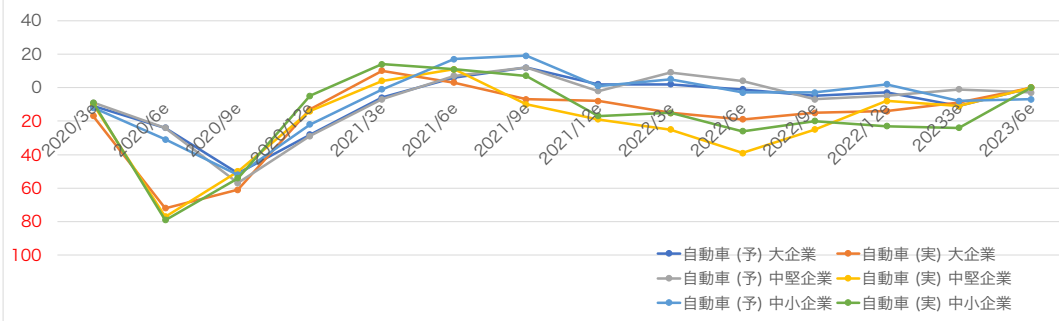


参考 日銀短観：判断項目 業況 (良い - 悪い) 製造業



2023年3月末までの実績ベースに、COVID-19以降、36ヶ月の業況を診る - 製造業全般、自動車、他 (1 / 2)

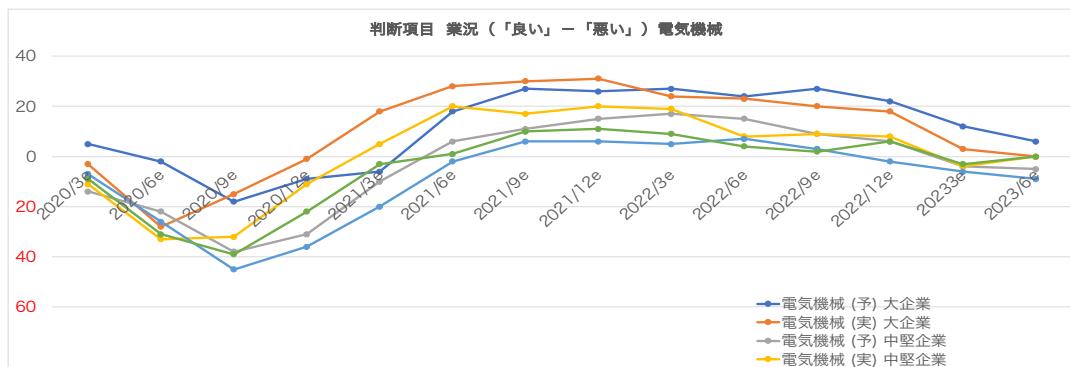
判断項目 業況 (「良い」 - 「悪い」) 自動車



判断項目 業況 (「良い」 - 「悪い」) 自動車

- 自動車大手、実績、予想を上回り、COVID-19の回復基調になり、2021/3eが良いのピーク、しかしその後、悪いに転じ、下げ傾向。
- これは半導体の影響に始まり、最近のウクライナ紛争が継続していることか。
- 中堅、中小も大手と連動した傾向にある。
- 日本の自動車産業のピラミッドでの一体の構造（サプライチェーン）を表している。

判断項目 業況 (「良い」 - 「悪い」) 電気機械



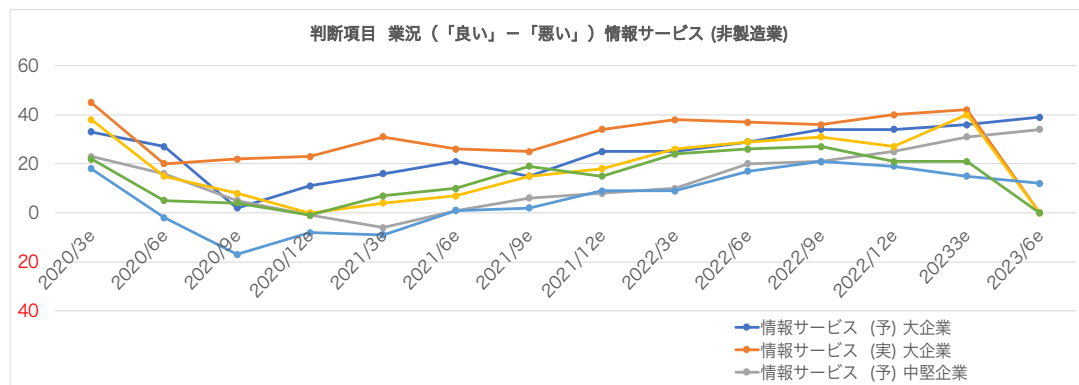
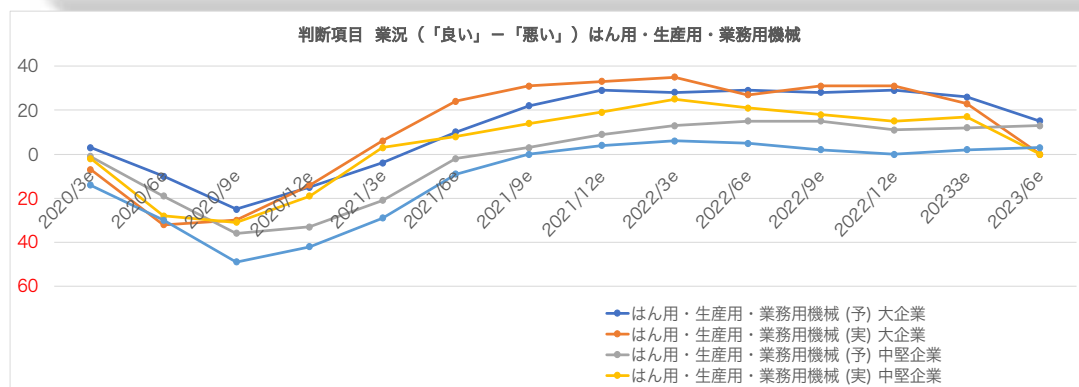
判断項目 業況 (「良い」 - 「悪い」) 電気機械

- 電気機械、実績、予測を下回る、目下下方に
- 昨今のウクライナ紛争に関連しての景気懸念はいずれ影響が明確に出てくるだろう。
- 中堅、中小、傾向は同じだが、大企業含めて、それぞれの実績に大きな開きあり (予測も同様)
- ピラミッドの自動車と違って、それぞれは市場を握っていることに起因か。

参考 日銀短観：判断項目 業況 (良い - 悪い) 製造業



2023年3月末までの実績ベースに、COVID-19以降、36ヶ月の業況を診る - 製造業全般、自動車、他 (1/2)



判断項目 業況 (「良い」 - 「悪い」) はん用・生産用・業務用機械

- 実績、予想をかなり高く上回り、2021/6eから2021/12eにかけて上方に向うが最近は下方に
- 昨今のウクライナ紛争に関連しての景気懸念はいずれ影響はあるだろう。
- 中小は、2021/12eをピークに、2022/3eに下方へと、すでに影響があることが伺える。
- ピラミッドの自動車と違って、それぞれは市場を握っていることに起因か。

判断項目 業況 (「良い」 - 「悪い」) 情報サービス (非製造業)

- 情報サービス、実績、予想をかなり高く上回り、長期的かつ連続的に上方に向かっている。
- 昨今のウクライナ紛争に関連しての景気懸念はここには無いのだろうか。
- 中堅&中小はほぼ同じラインで推移。大手はその上を、COVID-19の影響は微小だった。
- むしろ、在宅需要などで好調に推移している可能性あり。

CIMdata PLM市場分析レポート (MAR Series)



主なPLM Foresight提供製品、進展・拡大する
MARシリーズ(1/2)

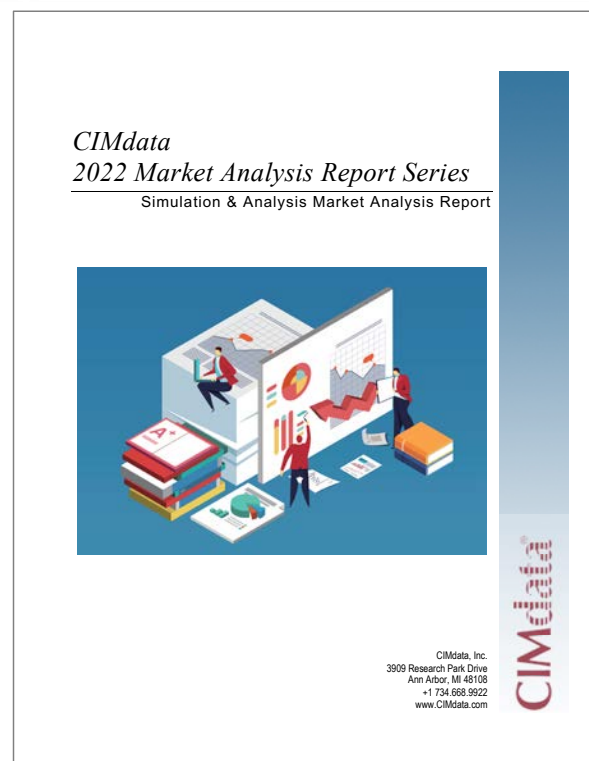


- CIMdata Executive PLM Market Report
- CIMdata PLM Industry Review and Trends Report
- CIMdata PLM Market and Solution Provider Analysis Report
- CIMdata PLM Market Geographic Analysis Report
- CIMdata PLM Market Industry Analysis Report
- **2022年以降 PLM Industry Review and Trends Report、日本語版刊行**

CIMdata S&A市場分析レポート (S&A MAR)



PLM MARデータをよりフルに活用し、S&A固有のコンテンツを加える



- S&A市場のカバー範囲を拡大
- MARには以下のS&A市場データを含む
 - 会社の規模
 - ソフトウェアとサービスの提供
 - 業界別
 - 地域/国別
- トップ10のS&Aソリューションプロバイダに関する定性的なセクションを含む
- さらに、コラボレーティブなリサーチプログラムに基づくエンドユーザーリサーチも含む
- **2021年以降 S&A MAR、日本語版刊行**

CIMdata デジタルトランスフォーメーションでの次なるものを明らかにして定義する



グローバル市場における競争優位のための
戦略的マネジメントコンサルティング

北米、欧州、アジアパシフィックの各オフィスからクライアントにサービスを提供

World Headquarters

Ann Arbor, Michigan USA

Tel: +1.734.668.9922

EMEA Headquarters

Weert, NL

Tel: +31 (0) 495.533.666

Asia-Pacific Headquarters

Tokyo, Japan

Tel: +81.47.361.5850

www.CIMdata.com